
ホットニュース(平成16年度／第81号)

●今月の業界ホットニュース／路地の街づくり

先月号で、「路地の街」十条を取り上げた。その後、都市計画家協会の向島キャラバン大会や神楽坂でのまち歩きにも参加した。いずれも「路地の街」といえる。また、同協会に「全国路地のまち連絡協議会」の事務局が設置されたそうだ。ということで、こここのところ「路地の街」づいてい

る。
さらに遊歩都市研究会では、南部繁樹さんを講師としてパサージュの話聞いた。パサージュはフランス語でその定義は、「通り抜け可能な建物内通路で、私有地であり、商店街をつなぐもの」だという。イタリア語では有名なガレリアである。ヨーロッパでは街区規模が大きく、また中庭が多くあるので、これを繋いで通り抜けのできるパサージュが数多く見られる。ヨーロッパ型路地と言えなくもない。

いずれにせよ、路地空間の良さは、車からガードされ安全でゆったりと歩くことができ、人の密度も高くなることにある。自然発生的な交通セルとも言える。

ほとんどの都市に、まだ数多くの路地を抱える地区が残されている。路地を活かしながらか、まちなか活性化、交通、防災といった視点で、路地を抱える地区の街づくりに総合的に取り組めたら面白いと思う。

(代表取締役 堀田 紘之)

●「交通技術師」資格試験を受験しました

先日、「交通技術師」の資格試験が(社)交通工学研究会によって実施されました。この資格試験は、今年度から創設されたものであり、これまでは道路交通分野に特化した資格制度がなかったことから、道路交通を専門に従事してきた技術者にとっては待ちに待った(?)資格制度が発足されたこととなり、弊社からも私を含み数名が受験しました。

試験の出題分野は交通調査、交通流現象、道路の設計と管理、交通安全、交通管理と運用、交通計画、法制度・環境影響評価制度といった交通技術、土木設計など多岐にわたっており、受験者は我々の同業者、警察関係者、行政関係者と幅広い業種の人たちのようでした。

「交通技術師」とは、道路交通技術に関わる基礎的専門知識を有し、道路交通運用に関わる専門業務に従事できる者、と位置づけられており、つまりは実務者レベルとしての必要最小限の知識を有し、問題・課題に対して適切に対処することのできる者と考えられます。

普段から交通技術分野を実務としている我々にとっては、資格取得は必須であります。「交通技術師」に限ってのことではありませんが、「資格」とは一定のこゝろを行うために必要とされる条件や能力のことであり、それを有していることは客観的にみてその人の専門能力が認められるということと考えます。もし資格を取得したならば、その能力の維持・向上に努めることが重要なのだと思います。

ちなみに、指導者レベルとしての能力を有する者と認定される「上級交通技術師」は、平成18年度の資格試験実施に向けて準備が進められています。

(第一計画部 鈴木 一郎)

●温泉まちづくりについて

温泉を活かした地域振興に関わる事例調査で、大分県湯布院町の由布院温泉と熊本県南小国町の黒川温泉を視察した。二つの温泉地はいずれも行ってみたい温泉地のアンケートでトップを争う人気スポットであり、その理由として泉質が良いことはもとより、独自のコンセプトに基づき観光客をもてなすサービスや演出に長けていることにある。

由布院温泉は、町の中心部に住宅と混在するかたちで温泉宿や観光スポットがあるため、単なる観光地化ではなく、温泉、文化、自然などの住民の生活環境を整えたいうえで、湯布院なりの保養温泉地を形成していくというものであった。こうしたコンセプトに沿った景観づくりとともに映画祭や音楽祭、その他様々なイベントを約30年継続して展開している。

一方、黒川温泉は山里の小さな温泉街であり、いわゆる観光名所や眺望などの自然があるわけではない。しかしながらこの条件を逆手にとって意図的な植栽を感じさせないように雑木を植えて徹底的な田舎の原風景を演出している。また、二十数件の温泉宿がそれぞれ緑に囲まれた露天風呂を作り、さらに全体が一つの旅館というコンセプトで、入浴手形を購入した温泉客は好きな露天風呂を3件ハシゴできるサービスがある。

こうした二つの温泉街の取り組みは、温泉旅館が宿泊客を囲い込むのではなく温泉街をそぞろ歩きさせる効果があり、これにより温泉街独特の風情を醸し出し、街なかの観光対応の店舗の活性化といった連鎖が生まれるのである。

とかくストレスがたまる現代社会において、癒しであるとか故郷情緒への欲求など、時代のニーズをうまく掴み、非日常的環境であるとか、もてなしのサービスを提供する温泉街はある種のテーマパークとも言えるようだ。こうしたホスピタリティーを提供するためには宿泊業者だけでなく地域ぐるみの協力体制が構築されており、地域資源をうまく活用した振興戦略を独自のコンセプトで具現化させることが重要である良い事例であった。

(第二計画部 海口 晴彦)

アルメックホットニュース(平成16年12月15日発行)

////////////////////////////////////